

東洋文化研究所

語り継がれる東アジアの文化財

創立70周年記念 特別企画

■ 講師
宮城 弘樹氏

(沖縄国際大学
総合文化学部准教授)



■ 講師
皿井 舞氏

(学習院大学文学部哲学科教授)



■ 講師
鶴間 和幸氏

(学習院大学名誉教授)



1975年生まれ、沖縄県名護市出身。今帰仁村教育委員会、名護市教育委員会を経て2015年から現職。主に琉球列島の先史時代からグスク時代の社会史に関心をもって研究を行う。専攻は考古学。近年は、歴史考古学に関心を寄せ、日本列島の南に連なる島々の調査を行う。著書に『琉球の考古学』(敬文舎、2022年)、共著書に『沖縄の水中文化遺産 青い海に沈んだ歴史のカケラ』(ポードーインク、2014年)などがある。

1975年生まれ、京都府京都市出身。京都大学大学院修了。博士(文学)。東京文化財研究所主任研究員、東京国立博物館平常展調整室長を経て、2022年より現職。専門分野は日本美術史(彫刻史)。東博では「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」(2018年)、「最澄と天台宗のすべて」(2021年)等の特別展を担当。共著に『古代史をひらくシリーズ 国風文化』(岩波書店、2021年)などがある。

1950年生まれ、東京都出身。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学、博士(文学)。茨城大学教養学部助教授としてつとめたあと、1996年より学習院大学文学部史学科教授を経て、現在名誉教授。専攻は中国古代史。『劇場版キングダム』では中国史監修をつとめる。著書に『始皇帝の地下宮殿～隠された埋蔵品の真相～』(山川出版社、2021年)、「人間始皇帝」(岩波新書、2015年)などがある。



開催形式 ハイフレックス型にて開催

入場無料・事前登録制

監修：安部 清哉(東洋文化研究所長)
司会：莊 卓 燐(東洋文化研究所助教)
田中美彩都(東洋文化研究所助教)

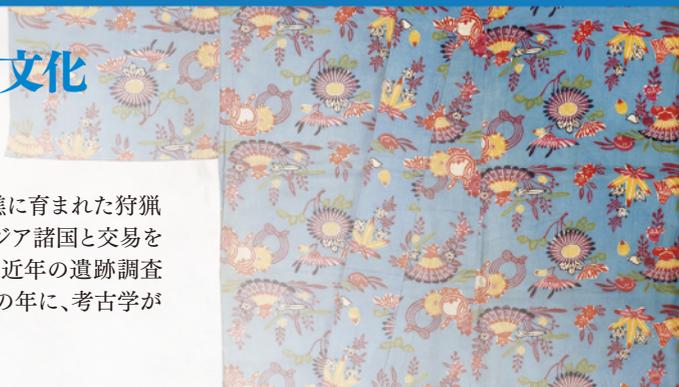
学習院大学東洋文化研究所

第107回 | 日時:9月2日(金)18:00~20:00

考古学からみた琉球・沖縄の歴史と文化

宮城 弘樹 氏(沖縄国際大学総合文化学部准教授)

沖縄には、旧石器時代の日本列島最古の全身人骨の発見から、サンゴ礁に育まれた狩猟採集民が築いた貝塚文化。そして、海を介して中国や日本、韓国、東南アジア諸国と交易をおこなった琉球王国という島の歩んだ個性的な歴史があります。さらに、近年の遺跡調査では沖縄戦の戦争遺跡の調査も行われています。沖縄復帰50年の節目の年に、考古学が明らかにしてきた琉球・沖縄の歴史を概観します。



第108回 | 日時:10月26日(水)18:00~20:00

東京国立博物館150周年記念特別展 「東京国立博物館のすべて」の楽しみ方

皿井 舞 氏(学習院大学文学部哲学科教授)

東京国立博物館の創立は、1872年(明治5年)に、文部省博物館が湯島聖堂大成殿において最初の博覧会を開催した時点としています。2022年は、その創立から150年の節目の年に当たり、秋には東博のこれまでの歴史とコレクションを総ざらいする特別展「東京国立博物館のすべて」が開催されます。展示替えはありますが、東博が所蔵する89件の国宝すべてを見ることのできる機会は、そうそうありません。本講演では、展覧会の魅力と見どころをご紹介します。



第109回 | 日時:11月16日(水)18:00~20:00

兵馬俑と古代中国

鶴間 和幸 氏(学習院大学名誉教授)

11月22日から開催される「兵馬俑と古代中国」展の概要を監修者から紹介します。とくに始皇帝の兵馬俑だけが等身大で写実的なものが作られた謎に迫ります。中国を最初に統一した秦の文化が西戎の文化であったこと、中国のさらに西方の文化の流入があったこと、始皇帝が孔子の教えに反して魂をこめた8000体もの兵馬俑の制作を遺詔として命じた可能性に迫ります。



学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学 北1号館4階)

■JR山手線目白駅 徒歩1分

TEL:03-5992-1015 FAX:03-5992-1021

E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp

URL:<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html>

